

10月27日(水) 朝日新聞朝刊

古都・奈良舞台 SDGsを学ぶ

青翔中学生が参加

古都・奈良を舞台にSDGs(持続可能な開発目標)を学ぶ講演が22日、奈良市の奈良公園バスターミナルで開かれ、県立青翔中学校の1年生約80人が参加



した。同校の校外学習の一環で、県奈良公園室が主催した。

春日山原始林について講義を受ける県立青翔中学校の生徒ら。奈良市登大路町

講演では、奈良教育大の大西浩明特任准教授が講師を務めた。SDGsの17の開発目標と照らし合わせながら、修復を重ねて現代まで受け継がれている東大寺の文化財や、シカや外来種によって植生が変わりつつある春日山原始林など、県内の持続可能な取り組みを紹介した。

途中から登壇した同室の

竹田博康室長が「近鉄奈良駅から原始林までの道を歩くと、時代が異なる建物や並ぶ。奈良が持続可能な社会を続けてきたことがわかる」と話すと、生徒らはうなずいたり、メモを取ったりした。その後、生徒らは実際に公園内を歩き、樹木などを観察して回った。

(渡辺元史)